

1-4 ホーンセクションの 楽譜の書き方、読み方

楽器名の表記、略記について

楽譜上に記載する各楽器の正式表記と略記は以下のとおり。スコア 1 段目には正式表記を、2 段目以降は略記で記載するのが一般的。

楽器名	正式表記	略記
トランペット(Bb管)	Trumpet	Trp. / Tp.
トランペット(C管)	Trumpet in C	C.Trp. / C.Tp.
トロンボーン	Trombone	Trb. / Tb.
バストロンボーン	Bass Trombone	B.Trb. / B.Tb.
サクソ	Saxophone	Sax
ソプラノサクソ	Soprano Saxophone	S.Sax
アルトサクソ	Alto Saxophone	A.Sax
テナーサクソ	Tenor Saxophone	T.Sax
バリトンサクソ	Baritone Saxophone	B.Sax

音部記号

各楽器の音部記号は以下のとおり。

楽器名	音部記号の種類	記号の表記
トランペット	ト音記号	
トロンボーン	ヘ音記号 テノール記号	
サクソ※	ト音記号	

※ サクソは「ソプラノ」「アルト」「テナー」「バリトン」共通で全てト音記号での記譜。

代表的な奏法とその表記①

1) レガート・スラー



フレーズ内を切れ目なく演奏する。

原則、スラーで括られたフレーズはひと息で演奏しなければならないため、必要以上に長いスラーを使うことは不可能。

現実的に演奏可能なフレーズを考慮して適度に分割することが望ましい。

3) グリッサンド

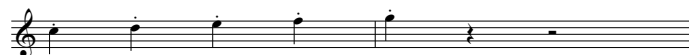


指定した音程を滑らかにつなげて演奏するテクニック。

トロンボーンではスライドを用いて無段階のグリッサンドを演奏することができる。

トランペット、サクソでは2音間を半音やスケールでつなげて演奏するのが基本だが、ハーフバルブなどのテクニックを使うことで無段階のグリッサンドも可能となる。

2) スタッカート



ひとつひとつの音を短く切って演奏する奏法。

細かい音符でスタッカートが連続する場合は、ダブルタンギング、トリプルタンギングといったタンギングのテクニックを使うことで高速で演奏することも可能。

4) グリスアップ・グリスダウン

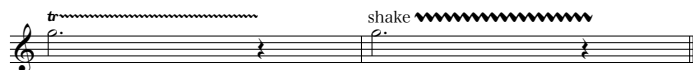


指定したノートへ駆け上がる、または指定したノートから駆け下がる奏法。後者は「フォール」ともいう。

トランペットやサクソでは、半音やスケールで、トロンボーンではスライドを用いた無段階のグリッサンドになることが多い。

代表的な奏法とその表記②

5) トリル・シェイク



2つの音程を交互に素早く行き来しながら演奏する奏法。

2度で行き来する場合をトリル、3度以上で行き来する場合はシェイクと覚えるとわかりやすい。

トランペットやサクソでは運指に無理がなければ比較的容易に演奏可能だが、トロンボーンでは、特殊な条件が揃わないと演奏が難しい。

7) フラッタータンギング



巻き舌をしながら演奏する奏法。

ブルブルとした荒々しい音色を得ることができる。

フルートの奏法として有名だが、ホーンセクション始め、様々な管楽器で演奏可能。

6) コン・ソルディエーノ



いわゆる「ミュート(弱音器)」をつけて演奏する奏法。

ストレートミュート、カップミュート、ハーマンミュートなど、ミュートの種類も様々で、それぞれ特有の音色を持っている。

消音よりも、音色の変化を目的として使われることが多い。

トランペットとトロンボーン(金管楽器)のみ対応可能。

8) グロウル



喉をうならせながら演奏する奏法。

ディストーションのような歪んだ音を出すことができる。

加トちゃんの「ちょっとだけよ」で有名な『タブー』のSaxソロはこの奏法で演奏されている。